

11月祭における「京大ミス・ミスターコンテスト」企画について

京大 ミス・ミスターコンを考える学生の集い

2024年度の11月祭において、「京大ミス・ミスターコンテスト」という名称の一般企画の出展が予定されている。11月祭を京都大学の学生、ひいては社会に対して位置づける上で、当企画の出展取り消しを求める。

1. 提出に至る経緯

2023年度第8回の11月祭全学実行委員会において、次年度における「京大ミス・ミスターコンテスト」の開催を企画する団体から、当企画への意見の募集を目的とした議題提起があった。2024年度には、この企画に関心を持つ学生が集まり、「京大 ミス・ミスターコンを考える学生の集い」を組織し、企画内容や開催の是非について議論が進められた。

8月、9月に2回の話し合いが行われ、その結果、11月祭全学実行委員会で再度議論し、開催の可否を決定することとなった。

2. 「京大ミス・ミスターコンテスト」の内容

前述2回の会議を経て、「京大 ミス・ミスターコンを考える学生の集い」は企画について以下のように認識している。訂正があれば「京大ミス・ミスターコンテスト」の方々にこの場で訂正をお願いしたい。

A.目的

京都大学の知名度を広めつつ、京大生の「リアル」を一般に伝えることが目的。学生主体で行う広報活動として、従来の大学の説明会とは異なる形式でのアプローチを目指している。

B.形式

「ミスコン」という名称で一般に想像される、ランウェイを歩きアピールをした後、審査員が点数をつけるという審査形式ではない。バラエティ番組のようなトークショー形式で、京大生の「リアル」をより広く伝えられた人を勝者とする。ステージイベント、及び構内路上での物販とSNSを活用したプロモーションを実施する。審査は参加者による投票で行われる予定。

C.参加者条件

京都大学に在籍する学部生および大学院生が対象。性別は男性・女性に分かれるが、特別な要望があれば柔軟に対応する。

D.名称について

「ミスコン」という名称は知名度を活用するために選択した。新しい形でのイベントとしての認識を広めたいとの意図がある。

3. 開催に関する議論

少なくとも以下の点について、「京大ミス・ミスターコンテスト」と「京大 ミス・ミスターコンを考える学生の集い」との話合いで意見が分かれている。この点を含めて議論を行ない、開催の可否を決定したい。

A. ジェンダー分離の問題

「京大 ミス・ミスターコンを考える学生の集い」: 性別による区分が伝統的なジェンダーロールを強化し、多様なジェンダー認識を軽視する可能性がある。

「京大ミス・ミスターコンテスト」: 京大女子枠に代表されるように、現在の潮流として区別することは望ましい。

B. 名称問題

「京大 ミス・ミスターコンを考える学生の集い」: 「ミス・ミスターコンテスト」という名称は、過去の外見重視のイメージを引きずり、誤解や批判を招く可能性がある。

「京大ミス・ミスターコンテスト」: 名称は企画の知名度を向上させるためにも必要。問題はないと考えてる。

C. キャンパスへの影響

「京大 ミス・ミスターコンを考える学生の集い」: 審査基準に容姿が入っていなかったとしても、イベントがキャンパス内で開催されることで、京大生や通行人に美的基準を押し付け、大学のイメージや学術的ブランドに悪影響を及ぼすリスクが指摘されている。

「京大ミス・ミスターコンテスト」: 企画内容を京大生がしっかりと認識していればそのような誤解はないはずであり、京大生全体のリテラシーが求められている。